



1 子どものときに好きだった遊び

ここでは「幼少期から小学生まで」、「小中学生」、「中高生」などと限定したほうが話しやすいと思います。設定は何でもいいです。子どものときに好きだった遊びは、国や地域によって異なると思うので、参加者全員が興味関心を持って話を聴くようにしましょう。

また、「学校が終わったあと、何をしていましたか」の問いに関しては、「遊んでいませんでした」、「クラブ活動をしていました」、「夜の遅い時間まで学校がありました」、「習い事がありました」等の話でもいいです。習い事の意味は、国や地域によって少し異なると思うので、確認してみるといいと思います。どのような意見であっても参加者全員の意見を尊重することを忘れないでください。

2 家事について話しましょう。

2は全員が自分の経験話せるように、ペアやグループでの活動(2、3人)をオススメします。そのあと、全体で共有する時間を設けましょう。

①では、アイスブレイキング1と同様、国や地域の特色が出る部分だと思うので、参加者全員の経験を引き出しましょう。

②では、得意な家事や苦手な家事について話します。話をより広げるために、得意な家事のこだわりなどがあれば、聞いてみたらいいと思います。また、「家族といっしょに暮らしているとき」と「ひとり暮らしをしているとき」だけでなく、「友だちといっしょに暮らしているとき」等、ほかにもさまざまな場合が考えられると思います。参加者の状況に応じて、適宜質問を変えてみるのもいいですね。

3 イラストを見て考えましょう。

3も、全員が自分の考えを話せるように、ペアやグループでの活動(2、3人)をオススメします。そのあと、全体で共有する時間を設けましょう。

①～④は、イラストの細かい部分まで見て、中学生の気持ちになって考えることがポイントです。サポートサイトのヒントを参考に考えてもいいです。参加者全員がみんなの考えを肯定的に捉えられるような雰囲気作りを意識しましょう。

読みましょう

● 定義と表記について

ヤングケアラーの定義、及び「きょうだい」と「障害」の表記は以下のサイトを参考にしました。



厚生労働省「こどもがこどもでいられる街に。」
<https://www.mhlw.go.jp/young-carer/>



● **1 段落 2 文目「幼いきょうだい」**

「幼いきょうだいの世話」とは、一時的なお手伝いではなく、保護者に代わって日常的に保育園などの送り迎えをしたり、家事をしたりすることです。きょうだいの世話に時間を使うため、勉強や部活、友だちと遊ぶ時間が十分に取れないというヤングケアラーが多いです。

● **1 段落 3 文目「日本語の通訳」**

「日本語の通訳」とは、日本語が母語（第一言語）でない家族のために、子どもが日本語の通訳をすることです。

● **2 段落目の埼玉県調査**

この調査は、2020年7月21日から9月11日にかけて実施され、埼玉県内すべての高校2年生55,772人のうち、48,261人が回答しました。入学間もない高校1年生は、新型コロナウイルスの影響もあって学校生活に慣れていないため、高校3年生は受験勉強などで忙しいため、今回の調査は高校2年生に限定されていました。（書籍毎日新聞取材班著『ヤングケアラー 介護する子どもたち』毎日新聞出版 2021年 pp.183-184 参照）

● **2 段落 3 文目「中学生からケアを始めた」について**

他の結果については以下の通りです。

- 「中学生から」688人 34.9%
- 「小学4年～6年」395人 20.1%
- 「高校生から」383人 19.5%
- 「小学1～3年」238人 12.1%
- 「小学校に入る前から」148人 7.5%



埼玉県「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラー実態調査結果」
<https://www.prefsaitama.lg.jp/documents/187028/youngcarer.pdf>



今日のこぼれ

「ケア」と「世話」の違いについて、ここでは「ケア」を「世話」よりもより広い概念で考えています。【読みましょう】1段落目にもあるように、「ケア」のなかに「世話」があるイメージです。

考えましょう
話しましょう

1 ヤングケアラーとは、どのような人ですか。

本文の1段落目を参考に考えます。答えは、その場で全員で確認しましょう。

2 どうして、だれにも相談しない、相談できないヤングケアラーが多いのでしょうか。

3 ヤングケアラーには、どんな悩みがあると思いますか。また、将来はどのようなことで悩むと思いますか。

ペアやグループ（2、3人）での活動がいいと思います。2のあとと3のあとにそれぞれ全体共有の時間も設けましょう。

23は、ともに絶対的な正解はありません。むずかしい場合は、サポートサイトに載せたNHKのサイトを参考に考えてもいいですが、参加者の意見を引き出すことを忘れないでください。ヤングケアラーに対しては、参加者によってさまざまな意見が出るかもしれません。否定的な意見が出ることも予想されますが、どのような意見であっても最後までしっかりと聴き、ひとつの意見として尊重するようにしましょう。

1～**3**すべてグループでの活動(3、4人)がいいと思います。それぞれ活動が終わったら全体で共有する時間も設けるようにしましょう。【学び合いましょう】は、絶対的な正解はないので、さまざまな意見があって当然です。参加者全員で意見を聴き、学び合う姿勢を大切にしましょう。

1 あなたは、ヤングケアラーのことをどう思いますか。次の(ア)～(エ)の中からあなたの考えに近いものを選んでください。

1は、ヤングケアラーに対する考えを共有する活動です。まず、全員で(ア)～(エ)の選択肢の意味を確認しましょう。最初からグループで話すのがむずかしいようであれば、一度自分のなかで考える時間を少し設けてからグループで話すというように段階を踏んでもいいと思います。

2 こんなとき、あなたはどうしますか。理由もいっしょに考えてみましょう。

2は、ケーススタディの活動です。まず、全員で①と②の内容を確認しましょう。そのとき、①はあなたが学校の先生、②はあなたが外国出身者の親という設定であることを全員で共有しておくことがポイントです。

3 ヤングケアラーのために、社会ができるサポートは何ですか。具体的なサポートを3つ考えてみましょう。

3は、ヤングケアラーのために社会ができるサポートを考える活動です。**1****2**は「個人のできること」を考えたので、**3**では最後に「社会」という広い目で考えたいです。「社会」だと広すぎて考えるのがむずかしければ、「国」「役所」「地域」というように範囲を限定してもいいです。**3**のグループ活動に入る前に、参加者が知っているサポートがあれば紹介してもらいましょう。グループで具体的なサポートを3つ考えるときに、どんなことができるか、だれに対してのサービスなのか等、細かい部分も話し合えたら、より対話が広がります。全体共有のときに、どうしてそのサポートを考えたのかを、ほかのペアやグループが質問することで、さらに学びが深まります。全体共有が終わり、少し時間が余っていたら、サポートサイトに記載してある参考サイトを参加者全員で確認してもいいですね。



今日の振り返りは必ず行いましょう。今日の活動で考えたこと、学んだこと、疑問に思ったことなどどんなことでも構いません。サポーターも含めた全員で振り返りを行うことに意味があります。

※振り返りの進め方などは、ユニット1に「まつお一口メモ」があります。あわせてご覧ください。